

## 命の浮き輪

今年7月、熊本県の球磨川上流を線状降水帯が襲い、球磨川が氾濫して尊い命が失われたり住宅や商店街の建物の損壊、農地・農作物など甚大な被害がもたらされたりしました。特別養護老人ホームの千寿園では14名もの方々が亡くなりました。



ヘリに救い出される人（千寿園）

近年の豪雨災害は年々ひどさを増す一方で、これから先、日本だけではなく世界中で同じような事は起きることでしょう。地球温暖化の阻止、という根本的な解決が必要ですが、とりあえず、今できることで、尊い命を救える手助けはないものでしょうか。

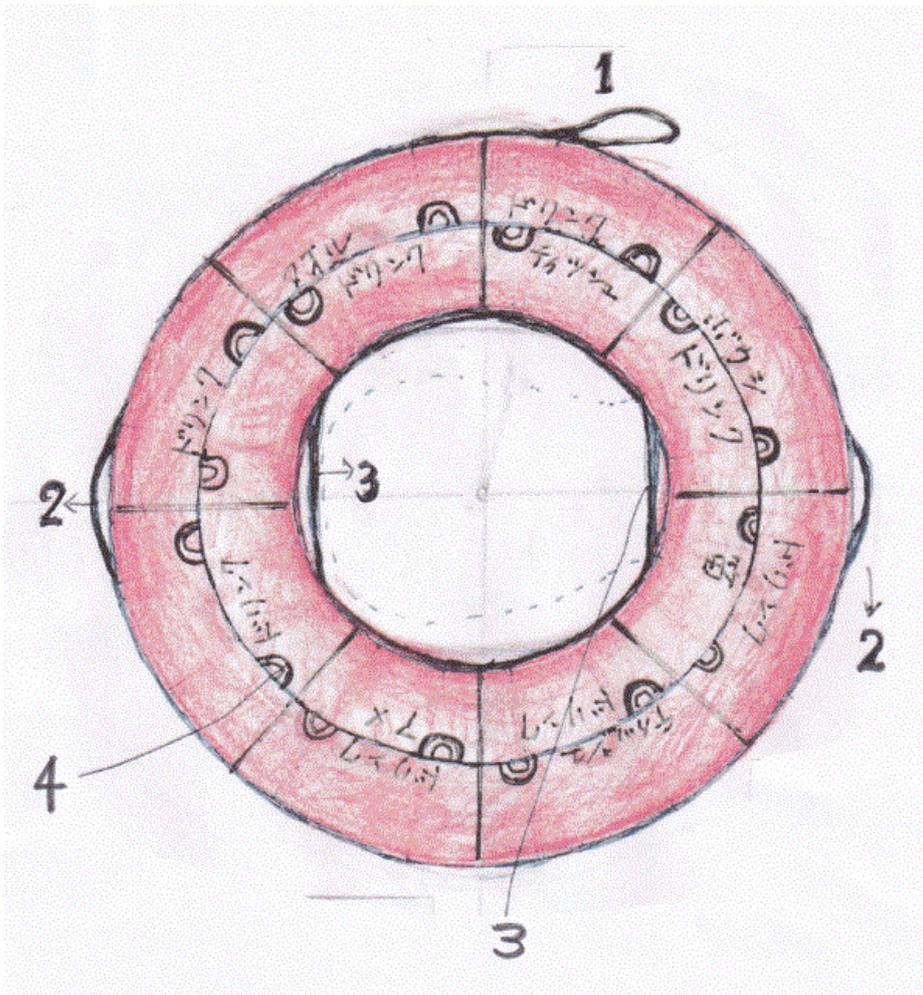
そこで、屋内をはじめ、戸外でも簡単に使用できるものはないか、考えてみました。

1階にいて、水がみるみるうちに侵入し、天井近くまできたような時、少しの空間があったために助かったとか、逆に、2階に移動するために手間取ったとか、ケースはさまざまでしょうが、こんな時、命の浮き輪を使って溺れ死ぬことを防いで少しでも人命が救えたら嬉しいです。

命の浮き輪は イメージ的に言いますと、海水浴で使う浮袋が、その外側に服をまとっていると考えてください。服にはいくつかのポケットがあり、非常時用の水、栄養剤、身分証明書などが入っています。

開閉口（図の4）を引くと、中からそれを取り出せます。

《 命 の 浮 き 輪 》



《命の浮き輪》

浮袋に、袋や取っ手、ワイヤー等をつけたカバーをかぶせる。蛍光塗料を塗ることで、暗闇であっても、浮き輪も文字も見えるようにする。

1. 細くて丈夫なワイヤー（指で引っ張るとするする伸びる）。輪の外側にぐるりと巻き付けてあり、使用時に柱などに巻きつけられる。
2. 手でつかんだり、手首を入れたりして浮き輪から外れないようにする。
3. 伸縮する太いゴムを脇に挟んで体を固定できる。
4. 開閉口は、指で引いて開けることができ、貯留袋からチューブで水や栄養剤を摂取できる。中身は色々考えられる。例えば、ティッシュペーパーやビニール類や、身分証明書、顔写真、親族等の連絡先、薬、飴など